

4. 土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業に関する事項

〔1〕市街地の整備改善の必要性

(1) 現状分析

(現状)

中心市街地は、天正 11 年（1583 年）に真田昌幸が築城した上田城の城下町として、また、北国街道の宿場町として形成されてきた。現在でも数多く残されている文化財や歴史的建造物、道路形態などが当時の面影を残し、現在の中心市街地の骨格となっている。

昭和 35 年当時の人口集中地区は、中心市街地の区域と概ね同じ地域で広がっていたが、その後の車中心の生活様式への変化などから、郊外居住や生活の広域化などが進み、人口集中地区の面積は 2 倍以上に広がり、人口集中地区の人口密度は逆に約 74 人/ha から約 37.6 人/ha と約半分にまで低下し、市街地の中心性、求心力は以前に比べ、小さくなってきてはいるものの、官公庁、文化施設、歴史的資源などが比較的狭い範囲に集積している。

(事業の取組状況)

平成 11 年に策定した基本計画では、高速交通時代に相応しい中心市街地の街並みを整備するため、南天神町常田線などの駅環状線や中央通り街並み整備事業などによる基盤整備を進めた。また、上田市の顔となる市街地を形成するため、上田駅お城口の再開発事業に取り組み、上田地域の玄関口にふさわしい利便性の確保と文化・情報の拠点として整備し、一定の成果を得ている状況である。

(2) 市街地の整備改善の必要性

(テーマとの関連)

城下町として形成された結果、各所に桁形の道路が構築されており大正から昭和にかけて整備が進められてきた。北陸新幹線が平成 27 年 3 月に金沢まで延伸となり、3 社の鉄道路線が接続する交通結節点として、ますます重要性が高まる上田駅の活用や、前計画で整備された J T 開発地における、交流文化芸術センター・上田市立美術館、大型商業施設等との連携により、多くの人を呼び込み「賑わいの再興」につなげ、「城下町ルネッサンス」を図るために必要である。

(目標との関連)

J T 開発地は、前計画で整備された民間の住宅団地は、上田駅に至近の交通利便性の高い住宅地として居住人口増加につながっている。一方で、空き店舗の増加など市街地の空洞化は進展しており、さらなる機能集積の取組が必要となっている。

また、昭和 30 年代に中心商店街で建設された共同ビルが老朽化し、その周辺に空き店舗が目立っている。さらに都市機能を集積させるためには建物の建て替えなどが今後の課題となっているが、個店には単独で建て替えができる体力はなく、国の補助金などを効果的に活用し、また、住民にとって地域資源としての商店街の連担性を確保していく必要がある。

このように居住満足度の高い中心市街地としていくため、都市基盤の整備と都市機能の更新・向上を進める市街地の改善を促していく必要がある。

(重点事業)

以上の現状及び必要性を踏まえ、中心市街地の活性化を目指す上で必要性が高く、目標達成に大きく寄与する「市街地の整備改善」事業として、以下の事業を位置付ける。

- ① 上田城跡公園駐車場整備、史跡上田城跡公園整備事業及びまちの駅設置による公園、駐車場等の公共施設の整備事業
- ② 「上田地域 30 分（サンマル）交通圏構想」を実現し、上田都市圏道路計画に位置付けた都心環状道路の一部となる街路を整備する事業
- ③ 安全・安心な市街地を形成するための地域内の道路を整備する事業
- ④ 土地の有効活用を促進する事業

〔２〕 具体的事業の内容

（１） 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

（２） ① 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ① 檜下泉平線道路整備事業 ■内容 天神三丁目と城跡下を直結する道路を新設することで交通の円滑化を図る道路整備事業（延長：132m） ■実施時期 平成 20～27 年度	上田市	J T開発地（天神三丁目）と上田城跡公園は鉄道で分断されており、回遊性を高めるためには鉄道を跨ぐ道路の新設が必要となっている。 地域住民の快適性を高め、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （千曲川リバーサイド地区Ⅰ期・Ⅱ期） 【実施時期】 平成 20～27 年度	
■事業名 ② 上田橋中島線道路整備事業 ■内容 千曲川堤防道路の改修により交通の円滑化を図る道路整備事業（延長：1,540 m） ■実施時期 平成 20～28 年度	上田市	古舟橋と上田橋を結ぶ堤防道路は、千曲川左岸地区から上田駅へのアクセス道路となるが、一部が未改良となっている。 アクセスする道路整備は、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （千曲川リバーサイド地区Ⅰ期・Ⅱ期） 【実施時期】 平成 20～28 年度	

■事業名 ③公共サイン整備事業 ■内容 ユニバーサルデザインに配慮し、案内サイン（標識）を設置 ■実施時期 平成 25～27 年度	上田市	観光客が車で中心市街地に訪れる際、目的地への円滑な誘導を行う。観光施設、主要な集客施設に優先し設置。 ユニバーサルデザインに配慮し、案内サイン（標識）を設置することは、特に上田市への転入者、高齢者及び障がい者が、街なかを安心安全に移動することができ目的地への的確な誘導を図ることにつながり居住満足度を高め、また、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （上田城下町地区） 【実施時期】 平成 25～26 年度 【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （上田城下町三期地区） 【実施時期】 平成 27 年度	
■事業名 ⑥新参町線無電柱化事業 ■内容 無電柱化による防災面の向上と、道路空間の再構築による安全性の向上を図る道路整備事業 （延長：490m） ■実施時期 平成 27～31 年度	上田市	上田城跡公園と中心市街地を結ぶメインロードである新参町線の電線地中化により、都市景観及び防災面の向上と、安全な通行空間の確保を図ることは、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加に必要な事業である。 合わせて、地域のイメージや周辺の景観との調和を図るため、市民協働による景観ルールづくり等を推進する整備事業は、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業であり、観光客の回遊性の向上にも繋がる必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （上田城下町三期地区） 【実施時期】 平成 27～31 年度	
■事業名 ⑨観光交流センター（まちの駅）設置運営事業 ■内容 観光案内や観光トイレ、商店街活動拠点整備 ■実施時期 平成 27 年度	上田市	設置予定場所は「歴史と散策の拠点」に位置付けられ、上田城跡公園や上田駅の観光客を街なかに回遊させる重要なポイントである。 上田市の観光案内や観光トイレ、さらに平成 28 年 NHK 大河ドラマ「真田丸」の関連資料を展示し、また通常は商店街活動にも活用することとで、街なか観光の拠点になることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （上田城下町三期地区） 【実施時期】 平成 27 年度	

■事業名 ⑪上田城跡公園北駐車場整備事業 ■内容 不足している上田城跡公園の駐車場を整備 「二の丸北（青少年ホーム）」 ■実施時期 平成 27 年度	上田市	上田城跡公園は千本桜まつりや上田城けやき並木紅葉まつりをはじめ、多くの市民や観光客が訪れ、イベントの際には、駐車場が不足していることから、場所を確保する車で市内の道路が渋滞する状況である。 駐車場整備を行うことで、来園者の利便性を向上させ、中心市街地の拠点として賑わいが生まれ回遊性が高まり、活性化が図られることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （上田城下町三期地区） 【実施時期】 平成 27 年度	
■事業名 ⑫上田城跡前修景事業 ■内容 上田城跡と中心商店街を結ぶ道路の修景整備 ■実施時期 平成 27 年度	上田市	第二中学校改築事業に併せ、上田城跡前から中心商店街へ向かう大手通り沿いに、周辺の環境にも配慮した土塀風の外壁を整備し、城下町の雰囲気漂うまちづくりを推進する。これにより都市の魅力向上が図れることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業） （上田城下町三期地区） 【実施時期】 平成 27 年度	

(2) ② 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ④街なみ環境整備事業 柳町紺屋町地区 ■内容 旧北国街道の歴史的街なみを生かした道路・広場整備、建物の修景整備 （延長：700m） ■実施時期 平成 16～27 年度	上田市	柳町紺屋町地区は中心市街地の観光の拠点である上田城跡公園、池波正太郎真田太平記館の中間に位置し、中心市街地の回遊性を創出する重要な地点であることから、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（街なみ環境整備事業） 道路 国 1/2 市 1/2 修景 国 1/3 市 1/3 事業者 1/3 【実施時期】 平成 16～27 年度	

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

該当なし

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ⑤中常田新町線道路整備事業 ■内容 交通の円滑化を図る道路整備事業 （延長：65M） ■実施時期 平成24～28年度	長野県	千曲川右岸地区から、都市計画道路中常田小牧線、秋和踏入線を経て駅周辺へ接続する道路であるが、一部が未改良となっている。本路線の一部区間は県の街路事業により実施中であることから、事業効果を高め、中心市街地へのアクセス強化を図ることは、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑦史跡上田城跡整備事業 ■内容 国指定史跡である上田城跡を整備 ■実施時期 平成2～31年度	上田市	史実に基づく上田城跡の保存・活用方針を定めた「保存管理計画」と櫓や武者溜りなどの復元方策を示した「整備基本計画（改訂）」の2つの計画を策定し、本丸櫓の復元など、国指定史跡である上田城跡を国、県、上田市、所有者、市民が一体となって、保存して次世代に継承することは、観光地としての魅力を高め、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 国宝重要文化財等保存整備費補助金 史跡等公有化事業費補助金	
■事業名 ⑧第二中学校改築事業 ■内容 施設の老朽化等より建替えを行う ■実施時期 平成23～28年度	上田市	施設の老朽化等より建替えを行う第二中学校は、市のシンボル上田城の目の前にあり、中心商店街に向かう途上にある。整備にあたっては、外観をお城風のデザインとし、上田城跡の景観に配慮する。また、かつて藩校にちなんだ「明倫の間（仮称）」も整備して旧明倫堂の資料などを展示して地域に開放事業は、住空間と魅力を高め、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 	【支援措置】 公立学校施設費国庫負担金 学校施設環境改善交付金	
■事業名 ⑩上田城跡公園駐車場整備事業 ■内容 不足している上田城跡公園の駐車場を整備 「櫓下駐車場」 ■実施時期 平成27年度	上田市	上田城跡公園は千本桜まつりや上田城けやき並木紅葉まつりをはじめ、多くの市民や観光客が訪れ、イベントの際には、駐車場が不足していることから、場所を確保する車で市内の道路が渋滞する状況である。 駐車場整備を行うことで、来園者の利便性を向上させ、中心市街地の拠点として賑わいが生まれ回遊性が高まり、活性化が図られることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

5. 都市福利施設を整備する事業に関する事項

〔1〕都市福利施設の整備の必要性

(1) 現状分析

(現状)

上田市でも、車中心の生活様式の進展などから市街地の拡大が進んだが、中心市街地では、通学区域内の生徒数が偏在した中学校や郵便局など一部の施設が区域外に移転したものの、市役所、市民会館、文化会館、図書館などの施設が中心市街地に立地しており、その後もふれあい福祉センターや情報ライブラリーなど新たな公共施設は中心市街地に整備された。また、病院、福祉施設、介護関連施設についても中心市街地に多く立地している状況である。

さらに、前計画では、大規模遊休地であった旧第一中学校跡地に総合保健センターが整備され、周辺の中央公民館、市民プラザゆうとも連携し、市民の健康福祉の拠点として機能している。

一方で、既存の各施設は昭和 30、40 年代に建設され、老朽化が進んでおり、将来的に建替えを進めていくことが必要となっている。上田城跡公園内にあって老朽化が進んでいた市民会館については、J T 開発地の交流文化芸術センターに機能を譲り、取り壊しが決まり、計画の史跡上田城跡整備事業の中で計画が進められることになっている。

(事業の取組状況)

中心市街地は高齢化率が高いことから、公営住宅の整備とともに民間事業者による共同住宅、社会福祉施設の整備が順次行われてきたが、さらに、前計画により、民間事業者による上田城大手門地区の高齢者福祉施設整備に対し支援してきたところであり、居住人口の増加や居住満足度の向上に対して一定の成果を得ている状況である。

また、前計画で整備された、マンションなど集合住宅により、中心市街地の小学校、中学校の児童生徒数が増加した。一方、子育て中の若い母親にとって就労のための環境整備も求められていることから、現在、民間事業者により、街なかの中規模の空き店舗を活用し、子育て中の女性が生きがいを持っていきいきと働ける施設整備が計画されており支援していく必要がある。

(2) 都市福利施設の整備の必要性

(テーマとの関連)

上田城跡公園や池波正太郎真田太平記館は、上田市の城下町としての歴史を今に伝える貴重な都市福利施設であり、その整備、運営は「歴史的・文化的遺産を活用」して「城下町のルネッサンス」を図るために必要である。また、市内に残るかつての職人に由来した町名は多様な機能を城下町に備えようとした名残である。現代のまちづくりには少子高齢化に対応するなど各種の都市機能を整備し、街中の居住人口を増やすことで「賑わいを再興」して「城下町ルネッサンス」を図るために必要である。

(目標との関連)

中心市街地では、街なか居住を図るために必要な都市福利施設は概ね揃っているが、当時の開発可能地に整備された結果、点在した形になっているとともに、施設の老朽化も進んでおり、市民にとって利便性は低下しつつある。

このことから、中心市街地に住む市民にとって居住満足度をさらに高めるとともに、中心市街地の一つにふさわしい都市機能の更新が必要である。

(重点事業)

以上の現状及び必要性を踏まえ、中心市街地の活性化を目指す上で必要性が高く、目標達成に寄与する「都市福利施設の整備」事業として、以下の事業を位置付ける。

- ① 上田市のシンボルであり、市民にとっての憩いの場であるとともに広域的な観光拠点となる上田城跡公園を整備する事業
- ② 子育て中の女性が生きがいを持っていきいきと働ける施設整備事業の支援事業
- ③ 各種の都市機能を担う公共公益施設を運営する事業

〔2〕 具体的事業の内容

（1） 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

（2） ① 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ⑫上田城跡公園バリアフリー化事業 ■内容 バリアフリー法に配慮した、園路整備 ■実施時期 平成 27～28 年度	上田市	中心市街地の回遊性を創出する重要な拠点である上田城跡公園のバリアフリー化整備を行うことは、訪れる市民や観光客の利便性を向上させ、安全で安心して園内を散策できることから、上田城跡公園の利用者数の増加につながっている。バリアフリー法に配慮した整備は、観光地としての魅力を高め、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金(都市公園等事業) 【実施時期】 平成 27 ～ 28 年度	
■事業名 ⑳ふれあい福祉センター耐震改修事業 ■内容 福利施設の耐震改修 ■実施時期 平成 28～30 年度	上田市	中心市街地に位置するふれあい福祉センターは、地域福祉の拠点として利用され、また災害時における地域の避難所にも指定されているが、耐震性が確保されていない。 施設の耐震化を図り、安全を確保することは、安全・安心な中心市街地の形成にもつながり、施設利用者の増加も期待できることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) (上田城下町三期地区) 【実施時期】 平成 28 ～ 30 年度	

（2） ② 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

該当なし

（3） 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ⑬サポートステーション運営事業 ■内容 就労問題で悩む若者に対する支援としてキャリアカウンセリング、コミュニケーションのスキルアップ等を行う。 ■実施時期 平成 20 年度～	NPO 法人侍学園スクオーラ今人	サポートステーションは就労問題で悩む若者の相談場所として国の委託を受けて平成 20 年度にスタートした。 中心市街地の中で重要な既存ストックである商業地に、若者の就労支援という多様な都市機能を集積して来街者を増やすことは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 厚生労働省委託事業 厚生労働省委託「地域若者サポートステーション事業」 【実施時期】 平成 20 年度～	

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置及び実施時期	その他の事項
■事業名 ⑭子育て中の女性がいきいきと働くための環境整備事業 ■内容 子育て中の女性が、生きがいを持っていきいきと働ける環境を整備する。 ■実施時期 平成26年度～	上田市・一般社団法人ループサンパチ	中心市街地の5階建ての空き店舗中、1・2階を借り上げ、1)コワーキングスペース(3階)、2)知育コンテンツ/託児(2階)、3)キッチンスタジオ(1階)を改修設置、子育て中の女性が、生きがいを持っていきいきと働ける環境を整備することは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業であり、「空き店舗数」の減少に必要な事業である。		
■事業名 ⑮コミュニティ施設等整備事業(柳町商工振興会) ■内容 柳町商店街の空き店舗活用し、コミュニティ等の用に供する施設を整備する。 ■実施時期 平成27年度	柳町まちづくり株式会社 柳町商工振興会	柳町は旧北国街道に面し、江戸末期から明治期に建築された建物が多く現存する。 文化と歴史の佇まいを今に残す希少な商店街であるが、近年空き店舗が増え、それに伴い地域コミュニティの担い手としての機能が低下している。 空き店舗を改築し、コミュニティ機能を備えた施設を整備することで、 ①柳町の景観の維持、保全を図り、 ②施設での事業者を地域コミュニティの担い手として人材育成を図ることは、施設利用者を中心に「中心市街地の歩行者通行量」の増加を図るため必要な事業であり、「空き店舗数」の減少に必要な事業である。		
■事業名 ⑯観光会館売店運営事業 ■内容 上田城跡公園に隣接する観光会館内で、観光客へのおもてなしと観光情報の発信を行う事業 ■実施時期 平成21年度～	上田観光コンベンション協会	観光会館は、上田城跡公園に隣接し、地元物産品の販売とともに観光案内、上田の魅力を紹介(真田氏関連ジオラマ・観光パンフレット等)するなど情報発信の場である。 観光に特化した施設である観光会館の積極的運営は、「上田市」の総合的なブランド力を高め、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

■事業名 ⑬共同作業所「ぽけっと」運営事業 ■内容 主に知的障害者を中心に、喫茶店の運営や販売事業を通じて日常的な生活訓練と社会参加を図るとともに地域との交流を図る。 ■実施時期 平成13年度～	NPO 法人 ぽけっと	「ぽけっと」は、障がい者の生活訓練の場であるとともに、地域社会との交流の場である。 中心市街地の中で重要な既存ストックである商業地に、障がい者の生活訓練及び社会参加の場であり、多様な都市機能を集積して来街者を増やすことは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		魅力あふれる商店街づくり支援補助金(市)(コミュニティ設置)
■事業名 ⑭上田市立博物館活用事業 ■内容 上田城跡内に立地する博物館として、上田城の歴史に加えて、城下町の発展の歴史を企画展・講座及び各種イベントにより紹介し、史跡や寺院・町並みなど城下町の痕跡を訪ね歩く機会を促す事業。 ■実施時期 平成21年度～	上田市	上田城跡公園内にある市立博物館は、上田を代表する著名人「真田氏」に関するものや城下町に関係する資料等を展示する文化施設である。また、上田市街地において重要な観光ポイントとなっている。 博物館には、多くの来訪者が訪れ、上田城跡及び城下町上田の史跡や寺院・町並みなどの情報を得る拠点ともなっている。このことから、博物館では、上田城の歴史に加えて、城下町の発展の歴史を企画展・講座及び各種イベントにより情報発信し、様々なニーズに応えるよう努力している。こうした取り組みにより、歴史に興味のある観光客及び上田市民の市街地での回遊は高まると考える。 この事業は、上田市の総合的なブランド力を高め、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を促す中心市街地活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑮海野町会館運営事業 ■内容 学びによる街なか賑わい創り推進事業 ■実施時期 平成21年度～	海野町商店街	商店街振興組合が設置した「海野町会館」は一般の地域活動の利用に供している。 「海野町会館」は、組合員のみならず、広く①「学びによる街なか賑わい創り」推進、②子育て中のお母さんたちの来街を促すため「赤ちゃんステーション」に対応したトイレ等設置や情報の発信(掲示板設置)を行っている。市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑯海野町ふれあいサロン(高齢者のふれあいの場) ■内容 商店街の空き店舗活用し高齢者の交流サロンを設置運営 ■実施時期 平成12年～	上田市	平成12年4月介護保険制度のスタートに伴い、介護保険法の円滑な実施のためには、その制度の健全運営とともに、高齢者が要介護状態になることを予防する取り組みを積極的に進めていくことが重要とされている。また介護保険サービスの整備とともに、健康づくり・生きがいづくり等のための一般福祉施策の充実が求められている。 国におけるこの介護予防拠点整備事業と商店街の空き店舗活用事業が重なり、高齢者向けのトイレ等の設置された「海野町ふれあいサロン」の運営が平成12年6月よりスタートし、今では高齢者の方の手作り作品展		

		示・憩いの場として活用されている。 「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ②上田情報ライブラリー運営事業 ■内容 上田駅に隣接する館内で、図書館機能と生涯学習機能を併せ持つ施設として、NPO 法人図書館倶楽部とも協力して各種イベント等を開催し、市民の利便性を高める事業 ■実施時期 平成 16 年度～	上田市	上田情報ライブラリーは、「暮らしとビジネス支援」をテーマに書籍にとらわれない情報収集の場であるとともに、地域の重要な資源である千曲川流域の資料を広く収集し、「千曲川地域文化を創造・発信」をコンセプトに掲げている。 中心市街地の中で重要な既存ストックである商業地に、I C Tに特化した駅前図書館施設という、多様な都市機能を集積して来街者を増やすことは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ②赤ちゃんステーション設置推進事業 ■内容 子育て中の女性にとっても安心して来れる環境整備 ■実施時期 平成 21 年度～	上田市	「赤ちゃんステーション」は、上田市が独自に取り組む子育て支援事業で、授乳場所、おむつ交換場所、子供と一緒に入れるトイレを無料で貸してくれるお店や施設を指定する制度である。 「赤ちゃんステーション」をまち中に整備することは、子育て中の女性にとって、安心して中心市街地を訪れることができる環境整備になる。 また、商店街全体で子育て支援に取り組むことは、安心安全の商店街のイメージアップになり、さらに「子育てするなら上田市の真ん中で」という意識にもつながり、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加にもなり、さらに市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ③交流文化芸術センター運営事業 ■内容 交流文化芸術センターを活用した交流と文化事業 ■実施時期 平成 26 年度～	上田市	J T 開発地に整備された「交流文化芸術センター」を地域の魅力と活力を創るシンボル施設として位置づけ、市の有する地域文化や歴史的、文化的遺産等の資源を活かし、地域の将来を担う子どもたちの育成を行う事業は、教育や福祉・医療面との連携により行政効果、そして、まちに賑わいと活気をもたらし、観光や商業、地場産業なども含めた地域経済にも大きな波及効果をもたらすことが期待されることから、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加にもなり、さらに市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ④上田市立美術館事業	上田市	J T 開発地に整備された「市立美術館」を地域の魅力と活力を創るシンボル施設として位置づけ、市の有する地域文化や歴史的、		

■内容 上田市立美術館を活用した文化発信 ■実施時期 平成26年度～		文化的遺産等の資源を活かし、地域の将来を担う子どもたちの育成を行う事業は、教育や福祉・医療面との連携により行政効果、そして、まちに賑わいと活気をもたらし、観光や商業、地場産業なども含めた地域経済にも大きな波及効果をもたらすことが期待されることから、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加にもなり、さらに市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ㉔空店舗を活用した食のコミュニティスペース・人材育成事業 ■内容 空店舗を活用した「食のコミュニティスペース」の設置・運営を行う ■実施時期 平成22年度	松尾町商店街	商店街が主体的に、空店舗を活用した「食のコミュニティスペース」の設置・運営を行い、各種教室の開催やキッズスペースの設置等により、子育て世代の集客を図ること、さらに商店街各店舗へ、大型店でも使える電子マネーシステムの導入により、顧客の利便性を高め、来店者数の増加を図る事業を行っている。市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化にも必要な事業であり、「空き店舗数」の減少に必要な事業である。		
■事業名 ㉕池波正太郎真田太平記館事業 ■内容 池波正太郎真田太平記館を活用した活性化を行う ■実施時期 平成10年度～	上田市	池波正太郎真田太平記館は、時代小説の人気作を数多く執筆した直木賞作家・故池波正太郎氏の著作「真田太平記」を紹介する文学館であり、常設展示では、氏の功績や作品に関連した取材ノート・自筆原稿・遺愛品などを展示。また、企画事業として、作品の歴史的背景を史料等により紹介する企画展・講座、季節に応じたイベント等意欲的な取組みは、地域の魅力発信拠点であり、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化にも必要な事業である。		
■事業名 ㉖上田映劇を活用した商店街活性化事業 ■内容 上田映劇を活用した活性化事業を行う ■実施時期 平成27年度	実行委員会	大正6年に開場された芝居小屋「上田劇場」の頃と変わらない外観のままの映画館『上田映劇』は、フィルム映画が掛けられる市内唯一の映画館であり、お芝居用の舞台を持つ。街に残る映画の灯を守るため、積極的に自主映画上映や演芸などを行っている。また、映画「青天の霹靂」等のロケ地にもなり、撮影された映画を見、市を訪れる人などを対象にしたスタンプラリー等活性化事業は、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化にも必要な事業である。		
■事業名 ㉗上田映劇エネルギー効率向上事業 ■内容 上田映劇のエネルギー効率の向上を図るための設備整備 ■実施時期 平成27年度～	民間事業者	地域の歴史的資産とも言うべき「上田劇場」は映画館と劇場機能を併せ持つ施設である。当該施設のエネルギー効率の向上を図りつつ、施設本来の機能維持する施設改修は、地元商店街の活性化にも重要であり、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化にも必要な事業である。		経済産業省「戦略的市中心地エネルギー有効利用事業補助金」申請予定

6. 公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅供給のための事業
及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等に関する事項

〔1〕 街なか居住の推進の必要性

(1) 現状分析

(現状)

上田市全体では、平成 18 年以降、減少に歯止めがかからず、平成 18 年に対し平成 25 年では 96.1%、約 4%の減少になっている。一方、中心市街地に人口でも、車中心の生活様式の進展などから、郊外居住化が進み、平成 7 年から 10 年間で約 11%の減少となっていたが、前計画で集合住宅が増えたことにより、平成 22 年以降増加が続き、平成 21 年に対し平成 25 年で 104.7%と約 5%増加した。しかし、全国的な人口減少社会の動向と同様に、上田市の人口も減少が続いている。

前計画で、中心市街地では民間によるマンション建設がみられ、人口増加したが、何もしなければ中心市街地でも減少に転じる可能性がある。老朽化が進む複数店舗の建て替えを進める中で良質な住宅の供給と良質な住環境を整えることで、街なか居住を進めることが考えられる。

(事業の取組状況)

前計画では、海野町商店街において、優良建築物等整備事業による共同住宅（21 戸）の建設支援を行い、その他、中心市街地の中では、民間事業によって高層の共同住宅の建設が行われ、中央三丁目 50 戸、中央四丁目 49 戸、中央一丁目 69 戸、天神一丁目 55 戸、合計 223 戸の住宅が供給された。また、J T開発地においても一戸建て住宅が 130 戸の住宅団地が設置されるなど、街なか居住の推進が図られた。

(2) 街なか居住の推進の必要性

(テーマとの関連)

市内には城下町当時の先人の知恵の集積ともいえる「歴史的・文化的資産」が残されている。

社会が成熟した今、「どんなまちに住むか」ということは重要な要素のひとつであり、中心市街地において歴史の重みを感じる町に住むことが居住満足度を向上できるように、「歴史的・文化的資産の活用」と「城下町意識の高揚」は「城下町ルネッサンス」を図るために必要である。

(目標との関連)

中心市街地の居住人口の増加は、中心市街地の多様な都市機能の利用者を増やすことであり、市民活動によって、地域内の活力やコミュニケーションの向上、安全・安心のまちづくりのために不可欠な要素と考えられる。

このことから、さらに住宅供給や街なか居住を進める施策などを展開していくことが必要である。

(重点事業)

以上の現状及び必要性を踏まえ、中心市街地の活性化を目指す上で必要性が高く、目標達成に寄与する「街なか居住の推進」事業として、以下の事業を位置付ける。

- ① 優良建築物等整備事業
- ② 街なかの居住を推進する民間事業
- ③ 街なか居住を促進する各種支援制度等に関する事業や、街なかの居住環境を向上させるための各種の事業

〔2〕 具体的事業の内容

(1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

(2) ① 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

該当なし

(2) ② 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ㊸優良建築物等整備事業（原町一番街地区） ■内容 中央二丁目（原町商店街）の空き店舗を含む共同ビルを建替え、店舗及び共同住宅（マンション）を建設 ■実施時期 平成 28～29 年度	民間事業	多世代が賑わう、魅力ある商店街の再生と、まちなか居住人口の増加を図るため、老朽化が進む中央二丁目（原町商店街）の共同ビルを建替え、1階には店舗、高層部は共同住宅の分譲マンションを建設する。 商業地域の中心に生じている活用の見込みのない空き店舗のある土地を有効活用し、居住人口の増加と商店の連担性の確保を図ることは、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 <予定住宅戸数 36 戸>	【支援措置】 社会資本整備総合交付金（優良建築物等整備事業） 【実施時期】 平成 28～29 年度	

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

該当なし

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ㊹歴史的街並み景観保全事業 ■内容 柳町で瓦灯籠の製作・点灯のほか従来から学習のための「寺子屋塾」（一般公開）、各種イベントを実施 ■実施時期 平成 18 年度～	柳町まちづくり協議会	柳町は、北国街道沿いの町として江戸時代の雰囲気良く残しており、観光客が訪れたり、映画・テレビのロケにも使われている。 景観保全が進むことで、居住環境が向上し、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 また、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加も期待される。		

■事業名 ⑩上田駅前パトロール ■内容 地域が一体となって行うパトロール・声かけ活動 ■実施時期 平成 15 年度～	暴走族対策会議（市、各種団体）	上田駅前、平成 15 年度に再開発によって広場が大きく生まれ変わったが、休日の前日の夜間には、バイクによる暴走行為など青少年の健全育成にも悪い影響が懸念されることもあったが、市民が中心となった定期的な駅前パトロールが行われている。 居住環境の向上につながり、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑪街なか健幸ウォーク ■内容 街なかを歩くきっかけとしてウォーキング事業 ■実施時期 平成 27 年度～	上田商業 21 世紀会	街なか健幸ウォークの推進の一環として、「街なか歩きマップ」を作成。これは、お子さん連れのお母さんには、子育て応援施設、トイレ、無料お休み処などの情報を、また、シニア世代向けには、AED 設置場所や歩く場合の距離・消費カロリーなど健康に役立つ情報を提供し、安心して、楽しい街なか散策に誘導する。 さらに多様な要望に応えた情報を提供し街なか健幸ウォークに誘うことは「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑫商店街あったかフォト選と商店街マップ活用 ■内容 商店街が行うフォトコンテスト ■実施時期 平成 25 年度～	上田商業 21 世紀会	「商店街あったかフォト選」はいわゆる写真コンテストではなく、商店街へ来て欲しいという願いを込めた企画。応募作品は、商店街の協力商店のウィンドウ等に展示。「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑬信州上田街なかサロン de 講座、まち歩き事業 ■内容 街なかを知り街を好きになってもらう事業 ■実施時期 平成 24 年度～	上田商業 21 世紀会	城下町だった中心部の歴史を学ぶ連続講座は、市内の商店街振興組合などでつくる上田城下町ウォーキング実行委員会が「街なかのことをよく知って、好きになってもらおう」と市民向けに企画。元県立歴史館専門員等を講師に中心市街地の歴史を中心商店街の人に学んでもらう事業は、市民、事業者等が連携し、地域の魅力を再発見し、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」のため必要な事業である。		
■事業名 ⑭優良建築物等整備事業（海野町商店会地区） ■内容 複数の店舗を共同で建替え、店舗及び共同住宅を建設 ■実施時期 平成 28 年度	民間事業	多世代が賑わう、魅力ある商店街の再生と、まちなか居住人口の増加を図るため、老朽化が進む複数の店舗（一部共同ビル）を建替え、1 階には店舗、高層部は共同住宅の分譲マンションを建設し、居住人口の増加と商店の連担性の確保を図ることは、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		社会資本整備総合交付金(検討中、28 年度)

7. 中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業、民間中心市街地商業活性化事業、中心市街地特例通訳案内士育成等事業その他の経済活力の向上のための事業及び措置に関する事項

〔1〕経済活力の向上の必要性

(1) 現状分析

(現状)

上田市の中心市街地において発達してきた中心商店街は、東信州における商圏の中心でもあったが、車中心の生活様式の多様化などを背景として空洞化が進み、一方、平成に入ってから以降は、郊外の幹線道路沿道などに多くの大型のロードサイド店が進出した。このことから、中心市街地の小売販売額は、平成24年には平成9年の約16.7%の額に落ち込み（P11）、上田市全体の小売販売額に占める中心市街地の割合は、平成9年の約14.5%から約3.5%にまで落ち込んでいる（P11）。中心商店街の歩行者通行量も大きく減少しており、商店街全体で昭和55年の調査開始時点は約82,000人であったのが、約11.5%の約9,400人にまで落ち込んでいる。（P13）

この間、県庁所在である長野市や中信地域の拠点都市である松本市との年間商品販売額における格差は拡大し、同じ東信地域内にある佐久市との差は縮小してきている。（P11）

平成26年度に行った中心市街地活性化住民意識調査では、中心市街地の利用目的は買い物が約60%と最も多いが、中心市街地では、JT開発地において大型商業施設ができ、「食料品、日用雑貨などの買物」では、大型店の利用割合が増えるとともに、中心市街地の中小商店（商店街）においても利用割合が増えている。中心市街地の居住者が増加するなか、中心市街地の中小商店（商店街）では、生活サービスの強化が課題としてあげられる。（P37）

(事業の取組状況)

先の中心市街地活性化住民意識調査では、中心市街地の活気の状況は、「とても活気が出てきた」、「少し活気が出てきた」の合計が、26.5%と前回調査（24.7%）より、1.8ポイント増加し、一方、「少し寂れてきた」、「とても寂れてきた」の合計は、34.5%と前回調査（44.1%）より、9.6ポイント回復しており、前計画事業により、活気を取り戻す方向に進みつつあることは伺える。

しかし、歩行者通行量の減少には歯止めがかからず、空店舗活用による空き店舗の減少にまでは至っていないことから、引き続き検討・実施が必要な状況である。

(2) 経済活力の向上のための事業及び措置の必要性

(テーマとの関連)

上田市は城下町として発展してきたが、商業はその中心的な位置を保ち、明治以後も鉄道の開通によってさらに商圏を広げ、拠点都市としての地位を確立してきた。経済活力の向上による「賑わいの再興」は、「城下町ルネッサンス」を図るために必要である。

(目標との関連)

経済活力の向上は、中心市街地が上田市のみならず東信地域の経済的中心としてあり続けるために必要不可欠な要素であり、特に市民に対して求心力を与える商業集積、魅力づくりが必要と考えられる。このことから、既存の商店街の魅力的な更新、消費者のニーズに即した商業集積づくりなどの施策を展開していくことが必要である。

(重点事業)

以上の現状及び必要性を踏まえ、中心市街地の活性化を目指す上で必要性が高く、目標達成に寄与する「経済活力の向上」事業として、以下の事業を位置付ける。

- ① 増加している中心市街地の居住者に対し、商店街からの積極的アプローチによる商業都市としての魅力を伝え高める事業。

- ② 既存商店街における空き店舗の解消や城下町としての歴史を来街者に伝える情報発信などによる魅力を高める事業。
- ③ 上田城跡公園への集客をきっかけとして既存市街地の回遊を図るイベントの実施。

〔2〕 具体的事業の内容

（1） 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

（2） ① 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ③⑥商店街イベント開催事業 ■内容 商店街振興組合が集客のため継続して開催するイベントの費用に対し、3/10以内（60万円限度）を補助 ■実施時期 平成14年度～	商店街振興組合	前計画から実施し商店街の主体活動のインセンティブとして活用されており、新計画でも有効な手段として、商店街振興組合等が実施イベントに対し補助し活性化を促すものである。 商店街の独自の自主的主体的活動を支援することは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 ①海野町商店街振興組合：七夕祭等 ②天神商店街振興組合：ナイトバザール等 ③松尾町商店街振興組合：幻灯舎イベント等 ④商店街振興組合うえだ原町一番街商店会：桜まつり等	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業 【実施時期】 平成22～31年度	上田市助成金
■事業名 ③⑦賑わいのまちづくり（中心市街地活性化支援事業）事業 ■内容 上田市TMO（上田商工会議所）がTMO構想に基づき、事業者や市民の参画を得て行う賑わいのまちづくり事業に対し、円滑かつ実効性のある実施のため必要な支援（事業費1/2相当を助成） ■実施時期 平成16年度～	上田商工会議所	前計画から実施している事業であり、中心市街地活性化に市と両輪となり取組む、上田市TMO（上田商工会議所）がTMO構想に基づき、事業者や市民の参画を得て行う賑わいのまちづくり事業に対し、円滑かつ実効性のある実施のための必要な支援（事業費1/2相当を助成）を行い活性化を促している。 最も、商店街に近い関係にある商工会議所に支援することで有効に活用されている。 市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業 【実施時期】 平成22～31年度	上田市助成金
■事業名 ③⑧中心商店街空き店舗活用助成事業 ■内容 商店街振興組合等	商店街振興組合等	商店街における空き店舗は増加傾向にあり、連担性が欠ける状況が懸念されるところから、前計画から実施している事業である。商店街が主体性を促し、定期的に野菜市等を開催し固定客も増える等集客を図る有効な手段となっている。 空き店舗を活用してコミュニティ施設の整備運営を行うことは、商店街における利便	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業	上田市助成金

が、商業地域において、空き店舗をコミュニティ施設の用に供するための整備のための改装費用又は賃貸料の一部に対して補助 ■実施時期 平成 12 年度～		性の向上により来街者を増やして歩行者通行量の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業であり、「空き店舗数」の減少に必要な事業である。 補助金額 改装：3分の1以内。ただし、1件につき300万円を限度。 賃貸料：2分の1以内。ただし、年間200万円を限度。 ① ぼけっと（海野町商店街） ② 松尾町フードサロン（松尾町） ③ 原町ふれあいサロン（原町） ④ 海野町GENKI家（海野町） ⑤ Hanalab3号店（海野町）	【実施時期】 平成 22 ～ 31 年度	
■事業名 ④テナント出店支援事業 ■内容 商店街への事業者の出店支援 出店時改修補助 1/3（上限 150 万円） ■実施時期 平成 21 年度～	上田市	商店街の誘致により出店する場合、出店時改修に対し、1/3（上限 150 万円）の補助を行うもの。 商店街の空き店舗の利活用推進を図るため魅力ある店舗を誘致することで、空き店舗を減少させるとともに、特徴のある商店街を形成することは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業であり、「空き店舗数」の減少に必要な事業である。	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業 【実施時期】 平成 26 ～ 31 年度	
■事業名 ④②上田城千本桜まつり事業 ■内容 上田城跡公園の桜をPRした各種イベントの実施 ■実施時期 平成 16 年度～	信州上田まつり実行委員会	上田城は「名城100選」にも選ばれ、近年は観光客も増加傾向にある。 上田城跡公園は、中心市街地にある一大観光地であり、公園内の千本桜は見事であり多くの観光客が訪れる。 上田城千本桜まつりは観光客を誘致する事業であり、中心市街地に回遊させるきっかけづくりであり、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業 【実施時期】 平成 26 ～ 31 年度	
■事業名 ④③上田真田まつり事業 ■内容 真田軍団出陣式、武者行列、楽市楽座など ■実施時期 昭和 57 年度～	信州上田まつり実行委員会	上田城跡公園から中心市街地商店街にわたって真田軍戦国武者行列は、真田幸隆、昌幸、幸村に加え、各姫君隊が付いて壮麗な歴史絵巻が春の上田を彩る。 このまつりは市民の祭りとして、また多くの観光客が訪れることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業 【実施時期】 平成 26 ～ 31 年度	
■事業名 ⑤⑥夏祭り開催事業 ■内容	連合自治会・実行委員会他	中心市街地で夏に開催される「上田祇園祭」は100近くの神輿や山車が、また「上田わっしょい」には100以上の踊り連が参加する。それぞれ市街地自治会や商店街を中	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業	

7月：「上田祇園祭」、「上田わっしょい」 8月：海野町七夕祭 ■実施時期 (上田わっしょい) 昭和 46 年度～		心とする実行委員会が主催。 さらに海野町商店街で開催される七夕祭では大きな七夕飾りが商店街に掲げられる。 いずれも大勢の見物客が集まる上田の夏の風物詩。 商店街、自治会及び事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地活性化に必要な事業である。	【実施時期】 平成 26 ～ 31 年度	
■事業名 ㊤信州上田灯りの祭典事業 ■内容 駅前で、上田市をアピールデザインによるイルミネーションで賑わい創出 ■実施時期 平成 26 年度～	実行委員会	平成 11 年以來、民間事業者が取り組み、平成 24 年から商店街、商工会議所及び市等で組織した実行委員会で実施している上田駅前イルミネーション事業は、市の玄関であり顔である駅前で、上田市をアピールデザインによるイルミネーションで賑わい創出を図るとともに、訪れた観光客に上田のイメージアップを図る。 事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 中心市街地活性化ソフト事業 【実施時期】 平成 26 ～ 31 年度	
■事業名 ㊤城下町上田誘客促進事業 ■内容 城下町上田の魅力発信とイベント等による誘客促進 ■実施時期 平成 27 年度	上田市	NHK 大河ドラマ「真田丸」放送や、北陸新幹線の金沢延伸を契機に、歴史的資源と地域の特色を活かしたまちづくりを推進するための各種イベント開催や、関連特設サイトの開設により、城下町上田の魅力を広く発信し、交流人口の拡大に結び付けることは、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) (上田城下町三期地区) 【実施時期】 平成 27 年度	

(2) ② 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
【再掲】 ■事業名 ㊤優良建築物等整備事業(原町一番街地区) ■内容 中央二丁目(原町商店街)の空き店舗を含む共同ビルを建替え、店舗及び共同住宅(マンション)を建設 ■実施時期 平成 28～29 年度	民間事業	多世代が賑わう、魅力ある商店街の再生と、まちなか居住人口の増加を図るため、老朽化が進む中央二丁目(原町商店街)の共同ビルを建替え、1階には店舗、高層部は共同住宅の分譲マンションを建設する。 商業地域の中心に生じている活用の見込みのない空き店舗のある土地を有効活用し、居住人口の増加と商店の連担性の確保を図ることは、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 ＜予定住宅戸数 36 戸＞	【支援措置】 社会資本整備総合交付金(優良建築物等整備事業) 【実施時期】 平成 28 ～ 29 年度	

(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
【再掲】 ■事業名 ⑮コミュニティ施設等整備事業（柳町商工振興会） ■内容 柳町商店街の空き店舗活用し、コミュニティ等の用に供する施設を整備する。 ■実施時期 平成27年度	柳町まちづくり株式会社 柳町商工振興会	柳町は旧北国街道に面し、江戸末期から明治期に建築された建物が多く現存する。 文化と歴史の佇まいを今に残す希有な商店街であるが、近年空き店舗が増え、それに伴い地域コミュニティの担い手としての機能が低下している。 空き店舗を改築し、コミュニティ機能を備えた施設を整備することで、 ①柳町の景観の維持、保全を図り、 ②施設での事業者を地域コミュニティの担い手として人材育成を図ることは、施設利用者を中心に「中心市街地の歩行者通行量」の増加を図るため必要な事業であり、「空き店舗数」の減少に必要な事業である。	【支援措置】 地域商業自立促進事業 【実施時期】 平成27年度	

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ⑮まちなかレンタサイクル事業 ■内容 レンタサイクル実施に向けた試行実験 ■実施時期 平成22年度～	上田市	前計画から実施し定期的に貸出があり、坂の多い市街地を観光で回る手段として利用者からも好評であり、低炭素社会の実現やコンパクトなまちづくりに向けて、自動車に極力頼らない市街地の移動手段の推進が必要である。晴天率の高い上田地域の特色を活かし、観光や仕事での来訪者、また日常生活においても自転車での移動手段は効果的であることから、レンタサイクル実施に向けた試行実験を行なうものであり、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑲原町一番街商店会幸村まつり（信州上田真田六文銭フェスティバルイン）事業 ■内容 歴史発掘、環境保全、地産地消をテーマに真田関連の講演会、真田を売出すイベントやPR ■実施時期 平成20年度～	原町一番街商店会	戦国ブーム、真田幸村ブームで多くの観光客が上田城跡公園等を訪れている。商店街が真田関連の講演会、真田を売出すイベントやPRを行う。また、商店街にある池波正太郎真田太平記館との連携を、さらに推進することにより、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

■事業名 ④⑩空き店舗情報一元化事業 ■内容 空き店舗情報を所有者等の協力を得て一元化、新規出店希望者に向けて情報発信する事業 ■実施時期 平成17年度～	上田商工会議所	空き店舗情報を一元化し、出店を検討している者に適時的確に情報を提供することにより商店街への出店を促すためには不可欠である。 当該事業は出店増加につながり、空き店舗の減少に必要な事業であり、また、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加及び「空き店舗数」の減少を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ④⑪まち中観光誘客事業 ■内容 まち中の魅力を、観光客及び市民にPRしまち中への誘客を図る ■実施時期 平成21年度～	上田観光コンベンション協会	城下町の魅力は歩いて初めて発見することが多い。上田城跡公園から中心市街地へツアー客を呼び込み、まち中観光へつなげ、中心市街地活性化に資する。 ①城下町戦国歴史散策 ②蚕都上田散策 ③城下町小路散策 など まち中観光によって、中心市街地を回遊させることで市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ④⑫海野町商店街フードサミット事業 ■内容 「食」をテーマにした海野町商店街活性化 ■実施時期 平成21年度～	海野町商店街振興組合	海野町は、全国の中でも早いうちに歩行者天国を実施したり、市内中心商店街の中で唯一、駐車場を商店街振興組合で特色のある取り組みを続けている。消費者のニーズに即した機能を導入し、買い物場だけではなく商店街としての魅力を高めることで、上田城跡公園及び池波正太郎真田太平記館への誘客につながることを期待でき、中心市街地の歩行者通行量の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ④⑬松尾町商店街情報誌「真田坂」発行事業 ■内容 地域情報の受発信、 ■実施時期 平成19年度～	松尾町商店街振興組合	松尾町は、上田駅の開業に伴い原町と上田駅を直線的に結ぶため、河岸段丘を切り崩してつくられた坂道沿いに商業集積が形成された。 通りの名前を「真田坂」としたフリーペーパーを発行し、地域情報を含め、消費者が求める情報を的確に発信していくことから、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ④⑭共通駐車券発行事業 ■内容 中心商店街近隣駐車場について、買い物客の利便性の向上を図るため、買い物額に応じて駐車料金が割引に	駐車券発行会	商店街では個店が、駐車場を確保している例もあるが、適地がない場合もあり、自動車に対する対応が必要となっている。 当該事業は、まち中の駐車場の利用を促すことで、商店街における利便性の向上につながり、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

なる共通駐車券を発行。				
■実施時期 昭和 59 年度～				
■事業名 ④海野町商店街駐車場運営事業 ■内容 中心市街地の来街者に対する利便性向上のため駐車場を設置・運営する。 ■実施時期 平成 8 年度～	海野町商店街振興組合	商店街では個店が、駐車場を確保している例もあるが、適地がない場合もあり、自動車に対する対応が必要となっている。 海野町商店街振興組合は、独自に駐車場を設置・運営することで、商店街における利便性の向上につながり、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ④A E D 設置・運用事業 ■内容 四商店街に A E D を設置運営 ■実施時期 平成 19 年度～	商店街振興組合	最近、A E D の有効性が認識され、公共施設を始めとして設置箇所が増えている。 また、地元の南部自治会連合会が中心市街地の A E D 設置場所を地図に全戸配布している。 高齢化社会の進展している中で中心商店街においても安全・安心のまちづくりを進めることは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑤コミュニケーションボード設置事業 ■内容 購買時の会話を絵と文字でボードに示したものを店内に設置することにより、外国人客にも対応 ■実施時期 平成 20 年度～	商店街振興組合	上田市は周辺市町村に比べ外国人居住者が比較的多いとされているが、日本語をうまく解せない者もいて、店主も買い物に訪れた外国人客とのコミュニケーションに苦慮しているところである。 商店街における利便性の向上は、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑤商店街イルミネーション事業 ■内容 各商店街及び駅前広場で年末年始の気分を盛り上げ魅力ある商店街づくり ■実施時期 平成 12 年度～	商店街振興組合 ライトアップ実行委員会	中心市街地商店街が、上田駅前の「信州上田灯りの祭典」に合わせ、それぞれイルミネーションを設置点灯することで、買い物客が増える年末年始の時期に商店街における娯楽性の向上は、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

■事業名 ②定期野菜市事業 ■内容 近隣の生産者が生産した野菜を商店街の空店舗、空地、会館などで直売 ■実施時期 平成5年度～	海野町商店街振興組合原番街商店会	中心商店街では生鮮食料品を総合的に扱う店舗が不足し、特に、自動車を所有しない高齢者にとっては深刻な課題である。 地産地消の視点も取り入れて消費者ニーズに対応して新鮮な野菜を商店街で販売することは、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加並びに市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 ①海野町商店街振興組合「ほきほき市」 ②原町一番街商店会「原町市」		
■事業名 ③「軍手ィ」プロジェクト事業 ■内容 信州大学繊維学部が商店街の店舗でデザイン軍手を製造・販売 ■実施時期 平成21年度～	オンデマンド・リメイク	中心市街地に隣接する信州大学繊維学部の学生が平成17年から開店した「オンデマンド・リメイク」はTシャツ（繊維）にプリントする事業を展開している。また平成19年から、デザインプリントした軍手を「軍手ィ」と名付け商店街で販売している。 商店街との販売、告知支援連携を取った活動により地域活力の向上を図ることは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地活性化に必要な事業である。		
■事業名 ④うえだ城下町映画祭事業 ■内容 上田でロケした映画を中心にまち中で上映する映画祭 ■実施時期 平成7年度～	うえだ城下町映画祭実行委員会	上田市で撮影した映画（最近でも「青天の霹靂」「ゼロの焦点」等多数）を中心に上映する「うえだ城下町映画祭」は中心市街地にある映画館を主会場に開催。毎年多くの映画ファンが集まるイベントになっている。 当該事業は、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑤メディアとのタイアップ事業 ■内容 上田がロケ地になった映画等に関連したイベントで誘客 ■実施時期 平成21年度～	上田観光コンベンション協会	上田市がロケ地となった映画やドラマは数多くある。これらのロケ地や映画等を活用した誘客活動をし、市、市民団体等が連携し地域活力の向上を図ることは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑦市街地景観整備促進事業 ■内容 カラマツで作ったベンチなどを設置 ■実施時期 平成20年度～	NPO法人フォレスト工房「もくり」上田商業21世紀会	NPO法人フォレスト工房「もくり」は間伐材を使った製品など加工・販売し自然環境の大切さを伝えようとする団体。 中心市街地に間伐材で作ったベンチなどを設置。市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地活性化に必要な事業である。		

■事業名 ⑤⑨電子マネー端末導入事業 ■内容 中心商店街の多くの店舗で、複数の電子マネーが使える端末機を設置することで大型店との回遊を図る ■実施時期 平成23年度～	中心市街地商店街	中心商店街の店舗で、nanaco(ナナコ)、E d y (エディ)、W a o n (ワオン)の3種の電子マネーが使える端末機を設置。電子マネーは商店街でも大型店でも使い、利用に応じポイントが貯まることから“販売促進効果”と“利用者の囲い込み”が期待できる。また、ポイント制度を個店独自に取り組む必要がないため、経費の節減になる。 大型店では、電子マネー取扱い店として商店街店舗を宣伝し、共通のポイントラリー開催により街なか回遊を図る。 また、電子マネーのチャージは、市街地にある大型商業施設に加え、一部大手門地区商業施設でも可能になる。 さらに上田地域オリジナルのnanacoカード発行により地域のPRにもつながる。 大型店と市街地商店街の電子マネーの取り組みは、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑤⑨インフォメーションコーナー設置事業 ■内容 JT開発地のアリオ上田の店内に「上田市インフォメーションコーナー」を設置し、中心商店街情報等を配置し街なか回遊を図る ■実施時期 平成23年度～	上田市	JT開発地のアリオ上田が、店内に「上田市インフォメーションコーナー」を設置。 中心市街地の商店街情報及び観光パンフレット、広報等を配置し情報発信。 市外からも多くの顧客を呼込む大型店の来店者に、街なかの観光パンフレットやお店情報等を発信することにより、街なかへの回遊を図る。 事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑥⑩真田十勇士モニュメントを活用した回遊事業 ■内容 真田十勇士のモニュメント10体を中心市街地商店街の各所に設置し、街なか回遊促進を図る ■実施時期 平成24年度～	信州上田城下町ウォーキング実行委員会 上田市	上田城を築き、池波正太郎氏の代表作にも描かれ、全国的にもファンの多い真田氏。その家臣として、『立川文庫』やNHK人形劇、また最近ではアニメ『戦国BASARA』でも人気の高い真田十勇士のモニュメント10体を中心市街地商店街の各所に設置。 架空のヒーローに遭える街として、子どもたちに夢と希望を与え、大人たちに懐古感、ワクワク感を提供し親子でも楽しめる空間を演出し、商店街や市民団体が実施する「真田」関係事業とも連携し、街なか回遊促進を図っている。 商店街及び市民団体に組織されたウォーキング実行委員会が実施主体となり、事業者等が連携した活動により地域活力向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

■事業名 ①日本一の兵「真田幸丸」プロジェクトによる商店街活性化事業 ■内容 商店街のオリジナルキャラクターを利活用した商店街活性化事業 ■実施時期 平成 25 年度～	原 町 一 番 街 商 店 会	池波正太郎氏の代表作にも描かれ、全国的にもファンの多い「真田」をテーマに一貫して取組んで来た同商店街のオリジナルのゆるキャラクター「真田幸丸」を利活用し、講演会を開催し、全国からご当地キャラクターに集め、また、商店街にある池波正太郎真田太平記館との連携を図り、全国発信をすることで、商店街の活性化を図ることは、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ②大手門地区商業施設拡充事業 ■内容 コンビニエンスストアが市、商店街及び商工会議所等の要望を入れ、戦国武将「真田」物産販売、観光情報発信、安心・安全の場の提供、街なか回遊にもつながる店舗を設置し連携して賑わいを創出 ■実施時期 平成 23 年度～	(株)セブン・イレブン・ジャパン	前計画で、中心商店街の中央交差点付近に、コンビニエンスストアが本部直営店として新規出店した。 地元商店街、商工会議所及び市等の要望を入れ、上田城大手門に位置することから、外観は景観に配慮し和風デザインとし、品揃えも戦国武将「真田」に関連した土産物物販及び観光パンフレット配置により観光客にも対応し、中心市街地の賑わいを創出している。 小学校通学路に面した店舗は、24 時間営業及び顧客用トイレ設置等コンビニエンスストアならではの機能・サービスは子どもたちを始め地域の安心・安全の向上につながっている。 また、地元商店街等の要望を入れ、年間を通じ、祭り・イベントの際は、駐車場の一部開放など地域と一体となった賑わいづくりに貢献している。 新計画で拡充を図り、さらに商店街としての連続性、観光物産の扱い、安心・安全、地域と一体となった賑わい作りなどを図る当該事業は、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図り、また、上田城跡公園と池波正太郎真田太平記館をつなぐ位置にあることから「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ③映画のまち、ロケ地ツアー事業 ■内容 中心市街地の中の映画等ロケ地巡りツアー ■実施時期 平成 27 年度～	実 行 委 員 会	上田市では、ロケ誘致による観光振興、地域活性化を目的に、平成 13 年、信州上田フィルムコミッションとして組織化。今までで累計 123 本の映画、77 本の TV ドラマのロケ実績がある（平成 25 度は映画 2 本、ドラマ 3 本）。ロケ誘致の主な代表作は「サマーウォーズ」というアニメーション映画や「青天の霹靂」。ロケ地マップの製作。中心市街地でも多くのロケ地があり、ロケ地を巡るツアーは、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加に必要な事業である。		

■事業名 ⑥⑤真田コンシェルジュ養成講座事業 ■内容 観光案内や街なか案内ができる人を養成 ■実施時期 平成27年度～	商店街	商店街が主体的に、店主自ら、街を訪れる人に、おもてなしの心で、真田を中心に観光案内や街なか案内ができる人になろうとする「真田コンシェルジュ養成講座事業」は、地域の魅力を高め、地域活力向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑥⑥歴史的地名を保存・活用したまちづくり事業 ■内容 市民協働による歴史的地名の活用と表示板・案内板等の設置充実 ■実施時期 平成2年度～	上田市	市街地の歴史を刻み、地域の営みや情景を映す貴重な歴史的文化遺産である「歴史的地名」は、昭和44年から48年にかけて実施された住居表示整備事業によって現在の町名に変更された。 歴史的地名を保存・活用したまちづくりを市民とともに推進するこの事業は、中心市街地の誇りと愛着を新たにし、住民同士の交流と地域コミュニティの活性化を図り、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑥⑦真田ブランド推進事業 ■内容 戦国武将・真田氏を活用した信州上田をPRする観光振興事業 ■実施時期 平成25年度～	上田市	上田を訪れた観光客に楽しんでもらい、満足度を高めることで、何回も訪れたいと思っていただける信州上田のファンを増やし、地域経済の活性化につなげことを目的とするために「真田氏を活用した観光振興」を推進し、上田の魅力発信と知名度の向上を図る。 真田氏を積極的に活用した観光メニューとして、滞在型観光モデルコースの設定や、上田城における信州上田おもてなし武将隊による活動、上田駅を真田氏をイメージした統一的な装飾にする観光客受入事業などにより、効果的な活用を実施し、観光客の回遊を促すことから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑥⑧交通機関を活用した市街地観光客誘客事業 ■内容 交通機関（鉄道、タクシー、路線バス等）を活用し、市街地への観光客周遊を目的とした信州上田をPRする観光振興事業 ■実施時期 平成26年度～	上田市	平成26年に運行開始とした観光列車「ろくもん」を活用し、乗降する観光客への市街地回遊を促すため、市街地周遊モデルコースなどをパンフレット等で案内。 観光ガイドタクシーの旅行商品として、ガイド・コースメニューの中に、市街地回遊プランを設定し、観光客の市街地回遊を促進するため積極的な活用を図っている。 街中回遊路線バスを活用し、観光ポイントを周遊するコースを設定することにより、観光客の回遊を促すことから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

■事業名 ⑨心の花美術館事業 ■内容 商店街の中の私設の美術館設置運営 ■実施時期 平成26年度～	民間事業者	心の花美術館は、個人で収集した美術品の展示や企画展などを行う美術館設立。展示スペースは1階、階段途中の中2階、2階の3フロア。車いすの人でも階段を上がれる器具も準備。「敷居の高い美術館のイメージを取り払い、子どもが入って来られる駄菓子屋的な地元密着のプチ美術館にしたい。上田に新たな文化の風を送り込みたい」という言葉どおり、現代アートも手に届くところに感じる施設。事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑩お舟の天王復元活用事業 (海野町商店街) ■内容 「山車」復活による活性化事業 ■実施時期 平成26年度～	海野町商店街・自治会	寛政12年の建造から200年余が経過し、木材の傷みも激しく、近年はお舟蔵に眠ったままとなっていた海野町商店街の「お舟の天王山車」を、平成26年、企業等の協力により修復。実に130年ぶりに引き出した事業は、地元自治会及び商店街が連携し取組んだ成果。「お舟の天王山車」復活は途中であるが、自ら街の宝を再発見し、街に誇りと愛着を持つきっかけになり、住民同士の交流と地域コミュニティの活性化を図るものであり、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑪お山の天王研究復元活用事業 (原町商店街) ■内容 「山車」復活による活性化事業 ■実施時期 平成27年度～	原町一番街商店会・自治会	祇園祭は城祭りとして営まれていたもので、海野町から「お舟の天王」山車、原町から「お山の天王」山車が出され、それぞれ常田獅子・房山獅子が出されていたという。130年ぶりに引き出された「お舟の天王」山車は保存されていたものを修理することができたが、原町のお山の天王は、現物が残されていない。そのため、商店街を中心に資料集め、講座の開催などを行う事業は、自ら街の宝を再発見し、街に誇りと愛着を持つきっかけを作ろうとするものであり、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑫天神天満宮祭事業 ■内容 「天満宮」を活かした活性化事業 ■実施時期 平成25年度～	天神商店街	まちの名の由来にもなる「天満宮」を活かした信州天満宮祭は、合格祈願「千社札」の配布、縁日、ご当地ヒーローショーなどは、地元商店街の手作りのイベント。街に誇りと愛着を持つきっかけを作ろうとするものであり、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑬NHK大河ドラマ「真田丸」プロジェクト ■内容 大河ドラマ放映をチャンスとした取組みを検討	上田市	平成28年放送のNHK大河ドラマのタイトルが、戦国武将の真田幸村の生涯を描く「真田丸」に決まったことを受け、戦国時代に真田氏の領地だった当市では、官民挙げて、このチャンスを活かすべく、また放送後も、来街者がリピータとなって来ていただけるまちづくりに取組んでおり、街に誇りと愛着を持つきっかけを作ろうとするものであ		

■実施時期 平成 27 年度～		り、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑭海野まちみらい会議 ■内容 地権者自ら市民の声を聴く場を設置 ■実施時期 平成 25 年度～	商店主	海野まちみらい会議は、自らの建物をミニ再開発するにあたり、地権者が、市民の声を聞き反映できることはしたいということで、ワークショップなどを実施し、広く公開。 事業者自らが住民の声を聞くという姿勢は、固有のファンを増やすことにつながり、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑮近代化産業遺産（蚕都）巡り事業 ■内容 中心市街地付近の製糸関連近代化産業遺産を巡るツアー ■実施時期 平成 25 年度～	実行委員会	世界遺産に登録決定した、群馬県の富岡製糸であるが、当市は「蚕都（さんど）」として経済的に発展した歴史を今に伝え建物や現役として今も使われている建物もある。明治から昭和初期の雰囲気を持つため映画・テレビの撮影にも良く使われる。 中心市街地付近の製糸関連近代化産業遺産としては国の文化財に指定された旧常田館製糸場（笠原工業㈱倉庫・繭倉・常田館・同館所有物）の他、信州大学繊維学部講堂、上田蚕種㈱事務棟等同時代の建物が中心市街地に多く点在し、それらを巡ることは、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	 	
■事業名 ⑯上田駅戦国装飾事業 ■内容 上田駅構内を戦国風をイメージした装飾する事業 ■実施時期 平成 27 年度～	上田市	戦国時代に真田氏の領地だった当市では、上田駅構内を、真田をテーマにしたディスプレイを、九州旅客鉄道（JR 九州）デザイン顧問で、インダストリアルデザイナー（工業デザイナー）の水戸岡 鋭治氏にデザインを依頼。上田駅の魅力を高め、来訪者を誘う装飾は、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ⑰街中等観光ガイド運営 ■内容 街中等観光ガイド運営 ■実施時期 平成 27 年度～	上田観光コンベンション協会	NHK大河ドラマ「真田丸」の放送決定に伴い、上田市に訪れる観光客は増加すると見込まれることから、中央商店街のエリアの中に観光案内所を設け、観光客への効率的な観光案内サービスを提供するとともに、市街地回遊を促すものとする。 また、上田城櫓門前に常設的な観光ガイドを運営し、観光客へのおもてなしの向上を図るものであり、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

■事業名 ⑳市民会館駐車場物産展等出展ブース、仮設トイレの設置運営 ■内容 物産展等出展ブース、仮設トイレの設置運営事業 ■実施時期 平成 27 年度～	上田観光コンベンション協会	上田城跡公園に訪れる観光客への受入体制の整備の一環として、上田市民会館駐車場において、信州上田産を販売する物産展ブースや、観光客用の仮設トイレを設置運営し、観光客へのおもてなしの向上を図るものであることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ㉑市街地花おもてなし事業 ■内容 市街地を花で飾る事業 ■実施時期 平成 27～29 年度	上田市 (商店街、自治会等)	平成 26 年度の北陸新幹線金沢延伸やNHK大河ドラマ「真田丸」放送決定により、より多くの観光客が上田を訪れる見込みである。 駅・原町・海野町から城跡公園までのルートにプランターやフラワータワー等を設置し、花いっぱいの上田で観光客をお迎えすることから、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ㉒店舗リニューアル事業補助金 ■内容 商店街の商業者で自ら店舗改修する者への支援 店舗外観改装補助 1/3or1/2、上限 20 万円又は 30 万円 ■実施時期 平成 27 年度～	上田市	商店街にある店舗の外装を改装する際、補助を行う制度を創設した。 商店街の景観性を高め、魅力を高めることによって中心市街地のにぎわいの創出を図るものである本事業は、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		中心市街地活性化プロジェクト事業申請予定(平成 27～31 年度)

8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項

〔1〕公共交通機関の利便性の増進及び措置の推進の必要性

(1) 現状分析

(現状)

上田市の中心市街地は、北陸新幹線等3社の鉄道路線、バスが結節する上田駅を抱え、市内で公共交通機関が最も便利な市街地である。

しかし、市内各世帯の自動車保有台数は年々増加し（P16）、車中心の生活様式が一層、進展していることから、新幹線を除く鉄道の利用者は減少傾向にあり、しなの鉄道は、平成22年度以降若干増加しているものの、平成11年と比較し平成25年は約15.5%減少、上田電鉄別所線は約20%減少している状況である。

バスについては、上田市内では路線バス21路線、うち廃止代替バス13路線、市が運営するコミュニティバス5種類（上田市街地循環バス、丸子地域循環バス、真田地域ふれあいバス、武石デマンド交通、オレンジバス）が運行されている。このうち、中心市街地を運行するコミュニティバスは上田市街地循環バス、オレンジバスの2種類であり、合せて年間約5万人から6万人の利用で推移している。

今後、高齢化の進展により、車の運転ができない人が増えると予想され、そうした人々の生活を確保するためには、公共交通の維持は不可欠であり、効率的なサービス提供のあり方の検討を進めていく必要がある。

(事業の取組状況)

前計画では、都市地域総合交通戦略として、道路、公共交通を含めた交通戦略の策定をすると同時に、上田駅へのアクセスを向上し、利用しやすくするため、市内循環バス、オレンジバスの運行について再構築を図った。その上で、別所線再生支援事業や平成27年3月の北陸新幹線の金沢延伸に向け、沿線都市の連携による交流人口増加について協議してきた。

(2) 公共交通機関の利便性の増進、特定事業及び措置の推進の必要性

(テーマとの関連)

鉄道開通以前から上田市は城下町、宿場町として街道の結節点であり多くの人で賑わった。

鉄道開通後は、さらに遠方から多くの人を上田駅を中心とした市街地に呼び込んだ。現代においても公共交通はもとより自動車による中心市街地へのアクセスの向上のほか、より広い範囲から新幹線を使って人を呼び込むことは「城下町ルネッサンス」を図るために必要である。

(目標との関連)

今後の人口減少社会、高齢化社会の進展を考えると、中心市街地の活性化を進めるためには公共交通機関によって郊外からも中心市街地にアクセスしやすくすることが必要である。

また、上田駅と前計画で整備されたJT開発地の交流文化芸術センター・大型商業施設、計画で整備を進める上田城跡公園などを結び循環するバスを運行することで個人旅行者が自由なプランで上田市内の観光を楽しめるよう、観光との連携も必要である。

このことから、生活支援、観光振興という観点から公共交通機関の利便性を高める施策展開をしていくことが必要である。

(重点事業)

以上の現状及び必要性を踏まえ、中心市街地の活性化を目指す上で必要性が高く、目標達成に寄与する「公共交通機関の利便性の増進等」事業として、以下の事業を位置付ける。

- ① 都市機能として不可欠なバス路線の確保・維持・活性化を目指す事業
- ② 市街地を巡る新しい循環バス事業

〔2〕 具体的事業の内容

(1) 法に定める特別の措置に関連する事業

該当なし

(2) ① 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した特例措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ㊸別所線再生支援事業 ■内容 別所線の存続及び利用促進に向けた資金的な支援をする事業 ■実施時期 平成 16～27 年度	上田市	別所線は、中心市街地と郊外を接続する鉄道として上田電鉄の中で唯一存続している路線である。また、「信州の鎌倉」として名高い塩田地域や別所温泉と上田城跡公園など中心市街地の観光地を結ぶ重要な路線である。 鉄道の存続により郊外からの住民の中心市街地へのアクセスのほか、塩田・別所温泉方面へ向かう観光客の交通手段が確保でき、来街者を増やすことにつながり、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。 また、交通手段としての別所線再生は、居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加にとっても必要な事業である。	【支援措置】 社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業) (千曲川リバーサイド地区Ⅰ期・Ⅱ期) 【実施時期】 平成 16～27 年度	

(2) ② 認定と連携した支援措置のうち、認定と連携した重点的な支援措置に関連する事業

該当なし

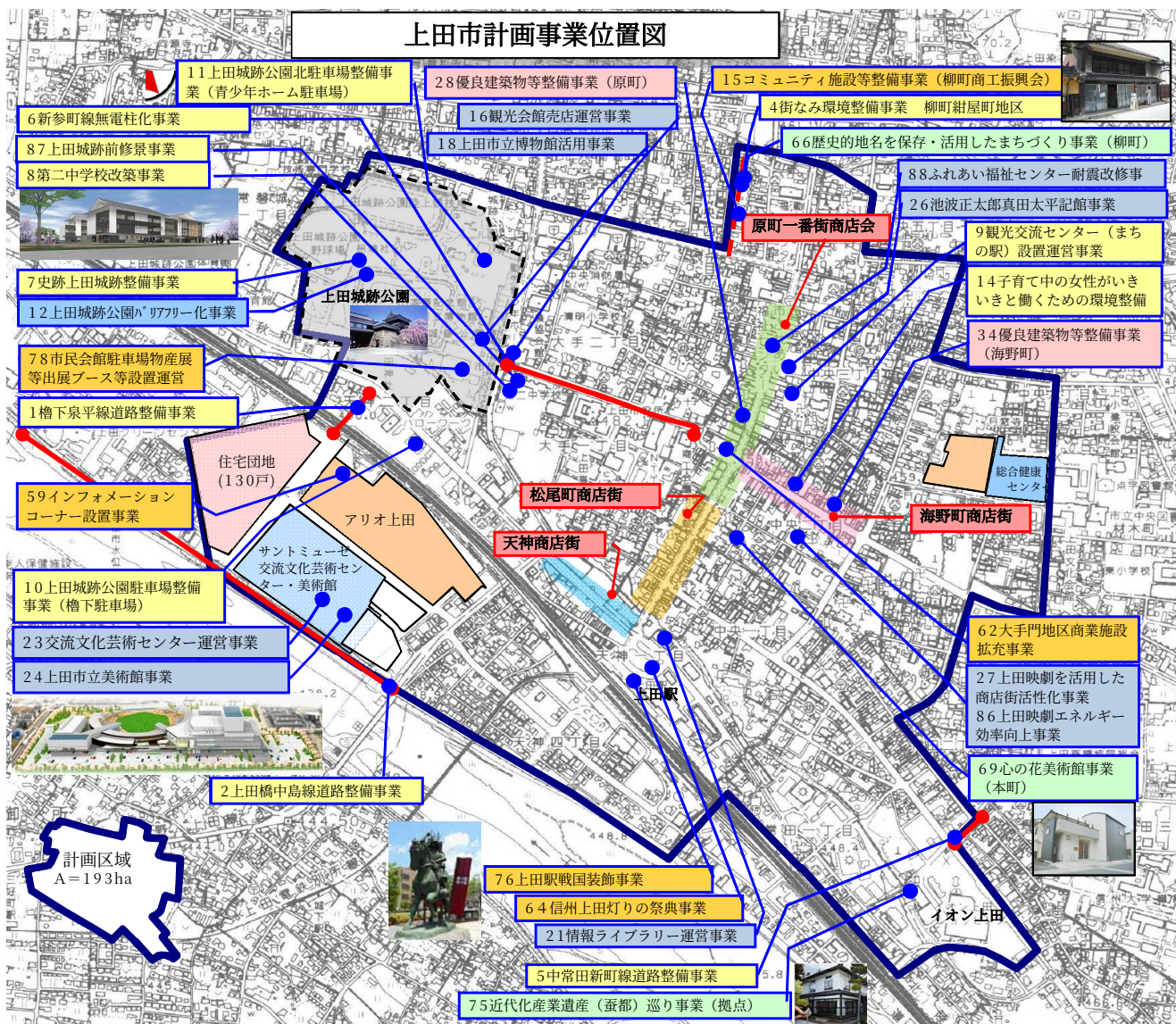
(3) 中心市街地の活性化に資するその他の支援措置に関連する事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ㊸コミュニティバス運行事業 ■内容 循環バス、オレンジバスの運行再構築 ■実施時期 平成 20～29 年度	上田市	上田市では平成 19 年度に「公共交通活性化プラン」を策定し、バス路線のあるべきサービスレベルについて検討した。 バス路線の再編、新設等によりルート及び運行時間の見直しを行い、中心市街地へのアクセスの向上、中心市街地内の移動利便性の向上を図ることになった。 中心市街地の回遊性を図るため、まちなか循環バスの導入について検討を進めることは、今後、市民、事業者等が連携した活動により地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加並びに居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。	【支援措置】 地域公共交通活性化・再生総合事業 地域公共交通確保維持改善事業 【実施時期】 平成 20～29 年度	

(4) 国の支援がないその他の事業

事業名、内容及び実施時期	実施主体	目標達成のための位置付け及び必要性	国以外の支援措置の内容及び実施時期	その他の事項
■事業名 ㊸北陸新幹線沿線都市交流連携事業 ■内容 平成 26 年度末に金沢に延伸する新幹線沿線都市の連携によって交流人口の増加を目指す事業 ■実施時期 平成 22 年度～	上田市他	上田市の観光の拠点となる上田城跡公園は中心市街地にある。 平成 27 年 3 月に北陸新幹線が金沢まで延伸となることによって、新幹線停車都市の広域的な連携により、さらに観光客を上田市に呼び込むことにつながるこの事業は、「中心市街地の歩行者通行量」の増加を目的とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ㊹運賃低減バス運行事業(実証運行) ■内容 都市機能として不可欠なバス路線の確保・維持・活性化を目指す事業 ■実施時期 平成 25 年度～28 年度	上田市	上田市内の路線バスは、通勤・通学、買い物・通院等を中心とした生活に不可欠な公共交通であり、主には中心市街地にある上田駅を起点として、市内では丸子・真田・塩田方面、市外においては、佐久・青木方面など多方面への運行を行っている。近年利用者が減少傾向にあり、行政負担額も増加するなど路線の確保・維持が課題となっている。 バスの運行に対する補助ではなく利用者に対する補助という新たな視点で、多様な利用目的や効果を生む運賃低減施策を推進し、輸送人員の増加と併せて中心市街地への回遊性を図ることは、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加並びに居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		
■事業名 ㊺市街地新循環バス運行事業 ■内容 市街地を巡る新しい循環バス ■実施時期 平成 27 年度～	上田市	中心市街地のうち、上田駅、上田城跡公園、交流文化施設「サントミューゼ」等コンパクトな範囲を結び循環することで、観光客の利便性確保、中心市街地の活性化を図ることは、地域活力の向上を図る「中心市街地の歩行者通行量」の増加並びに居住満足度の高い安全・安心な中心市街地の形成を進める「中心市街地の居住人口」の増加を目標とする中心市街地の活性化に必要な事業である。		

8. 4から7までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業に関する事項



全域又は広範囲にわたる事業

No.	事業一覧	No.	事業一覧
4. 土地区画整理事業、道路等市街地の整備改善に関する事業		(50)	コミュニケーションボード設置事業
(3)	公共サイン整備事業	(51)	商店街イルミネーション事業
5. 都市福利施設に関する事業		(53)	「軍手ィ」プロジェクト事業
(22)	赤ちゃんステーション設置推進事業	(54)	うえだ城下町映画祭事業
6. 住宅の供給、居住環境の改善に関する事業		(55)	メディアとのタイアップ事業
(30)	上田駅前パトロール	(56)	夏祭り開催事業
(31)	街なか健康ウォーク	(57)	市街地景観整備促進事業
(32)	商店街あったかフォト選と商店街マップ活用	(60)	真田十勇士モニュメントを活用した回遊事業
(33)	信州上田街なかサロン de 講座、まち歩き事業	(63)	映画のまち、ロケ地ツアー事業
7. 経済活力の向上に関する事業		(67)	真田ブランド推進事業
(35)	まちなかレンタサイクル事業	(68)	交通機関を活用した市街地観光客誘客事業
(36)	商店街イベント開催事業	(73)	NHK大河ドラマ「真田丸」プロジェクト
(37)	賑わいのまちづくり（中心市街地活性化支援事業）事業	(79)	市街地花おもてなし事業
(38)	中心商店街空き店舗活用助成事業	(85)	店舗リニューアル事業補助金
(40)	空き店舗情報一元化事業	(89)	城下町上田誘客促進事業
(41)	テナント出店支援事業	8. 公共交通の活性化その他の事業	
(42)	上田城千本桜まつり事業	(80)	別所線再生支援事業
(43)	上田真田まつり事業	(81)	コミュニティバス運行事業
(44)	まち中観光誘客事業	(82)	北陸新幹線沿線都市交流連携事業
(47)	共通駐車券発行事業	(83)	運賃低減バス運行事業（実証運行）
(49)	AED設置・運用事業	(84)	市街地新循環バス運行事業



まち歩き
安心健幸マップ
（中心商店街回遊事業）

